

## 平成19年度研究業績（大藏倫博）

### 1.学会発表：開催地も記入する。

1. 深作貴子, 奥野純子, 柳久子, 戸村成男, 藪下典子, 大藏倫博, 田中喜代次. 介護予防教室における在宅虚弱高齢者への栄養指導による介護予防効果. 第66回日本公衆衛生学会, 愛媛, 2007. 10.
2. 奥野純子, 深作貴子, 戸村成男, 柳久子, 藪下典子, 大藏倫博, 田中喜代次. 開始時のビタミンD濃度とビタミンD補充が虚弱高齢者の介護予防に及ぼす効果. 第66回日本公衆衛生学会, 愛媛, 2007. 10.
3. 中田由夫, 大河原一憲, 片山靖富, 松尾知明, 沼尾成晴, 大藏倫博, 田中喜代次. 食事制限に運動実践を加えることによる効果は肥満度によって異なる: The SMART Study. 臨床運動療法研究会, 大阪, 2007. 7.
4. 大藏倫博, 中田由夫, 大河原一憲, 沼尾成晴, 片山靖富, 松尾知明, 田中喜代次. 食事療法を併用した有酸素性運動の実践がメタボリックシンドロームの改善に与える影響: The SMART Study. 第28回日本肥満学会, 東京, 2007. 10.
5. 藤本幸弘, 大石洋子, 阿部純子, 高柳由紀子, 織田映子, 大藏倫博. エステティック施術と生活習慣改善指導が成人男性の体組成および腹部脂肪に与える効果. 第28回日本肥満学会, 東京, 2007. 10.
6. 中田由夫, 片山靖富, 松尾知明, 大河原一憲, 沼尾成晴, 大藏倫博, 田中喜代次. 肥満者におけるメタボリックシンドローム罹患率と減量に伴う改善率の男女差: The SMART Study. 第28回日本肥満学会, 東京, 2007. 10.
7. 笹井浩行, 中田由夫, 沼尾成晴, 大藏倫博, 田中喜代次. CT画像を用いた内臓脂肪面積の算出における撮影間および検者間誤差の検討. 第28回日本肥満学会, 東京, 2007. 10.
8. 金美芝, 藪下典子, 松尾知明, 大藏倫博, 田中喜代次. 地域在住高齢者における身体パフォーマンス評価指標を用いた身体的虚弱状態スクリーニング法の有効性. 第62回日本体力医学会, 秋田, 2007. 9.
9. 中田由夫, 河原一憲, 片山靖富, 松尾知明, 沼尾成晴, 大藏倫博, 田中喜代次. 食事制限に運動実践を加えることによってもたらされる効果: The SMART Study. 第62回日本体力医学会, 秋田, 2007. 9.
10. 松尾知明, 中田由夫, 大藏倫博, 田中喜代次. リバウンドをもたらさない減量介入プログラムの開発: Sodegaura Weight Management Study. 第62回日本体力医学会, 秋田, 2007. 9.
11. Sasai H, Katayama Y, Numao S, Nakata Y, Okura T, Tanaka K. Effects of exercise training on metabolic syndrome and its component factor in middle-aged Japanese men. The 54th Annual Meeting of American College of Sports Medicine, New Orleans, 2007.6.
12. Matsuo T, Nakata Y, Okura T, Hotta K, Tanaka K. Is peroxisome proliferator-activated receptor (PPAR) genotype a useful predictor for body-weight reduction?. The 54th annual meeting of American College of Sports Medicine, New Orleans, 2007.6.
13. Shigematsu R, Okura T, Nakagaichi M, Tanaka K, Sakai T, Kitazumi S, Rantanen T. Square Stepping Exercise And Fall Risk Factors In Older Adults: A Single-blind Randomized Controlled Trial. The 54th annual meeting of American College of Sports Medicine, New Orleans, 2007.6.
14. Yabushita N, Shigematsu R, Nakagaichi M, Matsuo T, Okura T, Shimura Y, Tanaka K. Primary factors for exercise habituation and physical activity barriers among community-dwelling older adults. The 54th annual meeting of American College of Sports Medicine, New Orleans, 2007.6.
15. Okuno J, Tomura S, Yanagi H, Yabushita N, Okura T, Tanaka K. Relationship between Serum 25-hydroxyvitamin D3 Concentration and Walking Ability, Leg Strength, or Balance in Community-Dwelling Japanese Frail Elderlies. The 29<sup>th</sup> American Society for Bone and Mineral Research. Honolulu, HI, USA, 2007.9.
16. 深作貴子, 奥野純子, 柳久子, 戸村成男, 藪下典子, 大藏倫博, 田中喜代次. 在宅虚弱高齢者における食品摂取状況の多様性と生活の質・食習慣との関連. 日本プライマリケア学会, 宮崎, 2007. 5.
17. 中田由夫, 大藏倫博, 田中喜代次, 堀田紀久子, 肥満関連遺伝子が減量効果に及ぼす影響～運動実践の有無を考慮して～: The SMART Study. 第17回日本疫学会, 広島, 2007. 1.

### 2.学術論文（原著論文，総説，研究資料，実践研究等）

1. 柳久子, 奥野純子, 戸村成男, 大藏倫博, 田中喜代次: 軽度要介護者の血中ビタミンDレベルの分布状況とビタミンD・カルシウム製剤補充による介護予防効果—生活機能・身体機能と血中ビタミンDレベルとの関連より—. Osteoporosis Japan, 15: 677-681, 2007. (日本骨粗鬆症学会 平成18年度 研究奨励賞)

2. Numao S, Hayashi Y, Katayama Y, Matsuo T, Tomita T, Ohkawara K, Nakata Y, Okura T, Tanaka K: Plasma fat concentration increases in visceral fat obese men during high-intensity endurance exercise. **Obesity Research & Clinical Practice**, 1: 273-279, 2007.
3. Okura T, Nakata Y, Ohkawara K, Numao S, Katayama Y, Matsuo T, Tanaka K: Effect of aerobic exercise on metabolic syndrome improvement in response to weight reduction. **Obesity**, 15:2478-2484, 2007.
4. 松尾知明, 室武由香子, 齋藤義浩, 大藏倫博, 中田由夫, 田中喜代次: 減量介入前の体格, 食事摂取量, 身体活動量が体重減少量に及ぼす影響. **肥満研究**. 13: 154-163, 2007.
5. Okura T, Nakata Y, Ohkawara K, Numao S, Katayama Y, Ono Y, Matsuo T, Tanaka K: Effects of weight reduction on concentration of plasma total homocysteine in obese Japanese men. **Obesity Research and Clinical Practice**, 1:213-221, 2007.
6. Matsuo T, Okura T, Nakata Y, Yabushita N, Numao S, Sasai H, Tanaka K: The influence of physical activity-induced energy expenditure on the variance in body weight change among individuals during a diet intervention. **Obesity Research & Clinical Practice**, 1: 109-117, 2007.
7. Kitamura I, Ando F, Koda M, Okura T, Shimokata H: Effects of the interaction between lean tissue mass and estrogen receptor gene polymorphism on bone mineral density in middle-aged and elderly Japanese. **Bone**, 40:1623-1629, 2007.
8. 安藤富士子, 北村伊都子, 甲田道子, 大藏倫博, 下方浩史: 一般地域住民における腹部肥満感受性因子の網羅的検討. 日本未病システム学会雑誌, 13 : 144-147, 2007.
9. 下方浩史, 安藤富士子, 北村伊都子, 甲田道子, 大藏倫博: 加齢とメタボリックシンドローム一年齢別に見たメタボリックシンドロームのウエスト基準値の妥当性-. 日本未病システム学会雑誌, 13 : 136-138, 2007.
10. 亀井智子, 梶井文子, 山田艶子, 川上千春, 久代和加子, 杉本知子, 大藏倫博, 小坂井留美, 新野直明: 都市部に居住する高齢者のための転倒骨折予防アウトリーチプログラムの実践—市民主導型介護予防をめざしたプログラム開発と評価—. 聖路加看護大学紀要, 33:74-84, 2007.

### 3.その他論文（報告書等）：学術論文と同様に入力する。

1. 平成 18 年度文部科学省科学研究費補助金（若手研究B）「内臓脂肪のオーダーメイド減量プログラム及び効果的なリバウンド防止法の開発」報告書. 研究代表者：大藏倫博. 2007 年.
2. ミズノスポーツ振興会研究助成金報告書「地域支援事業における特定高齢者の身体機能評価指標および運動プログラムの開発」代表研究者：大藏倫博. 分担研究者：田中喜代次, 重松良祐, 藪下典子, 坂井智明. 2007 年.
3. 平成 18 年度厚生労働省科学研究費補助金長寿科学総合研究事業報告書「生活習慣・背景因子・遺伝要因による総合的骨粗鬆症リスク診断システムの開発」主任研究者：安藤富士子. 分担研究者：大藏倫博. 2007 年.
4. 平成 18 年度厚生労働省科学研究費補助金循環器疾患総合研究事業報告書「心血管疾患のハイリスク患者スクリーニングのための新たな診断システムの構築とその臨床応用」主任研究者：北 徹. 分担研究者：大藏倫博. 2007 年.

### 4.著書（事典、翻訳書等を含む）

1. 田中喜代次, 木塚朝博, 大藏倫博 編著: 健康づくりのための体力測定評価法. 金芳堂. 京都, 2007.

### 5.その他（一般向け執筆、作品、番組出演等）

1. 大藏倫博. 健康づくりの第一歩は「決断」から. **CROSSつくば** (財団法人総合科学研究機構機関紙). 27:39-41, 2007.